必卑下、故謂之乾鵲、

〔藻鹽草十鳥〕鵲

かさゝ　かさゝぎの橋是いはれ七夕の所にあり、七月七日に二のさぎきて爲レ橋云、　鵲のみねとびこえてなく　かさゝわたせる橋におく霜是はたゞ雲のかけはし也、まことにあるにはあらず、　鵲のはねに霜ふり　鵲には木をめぐると云也

鵲のゆきあひのま○註略　鵲のよりはの橋　梢をめぐる鵲月きよみこずゑをめぐるかさゝぎのよるべもしらぬ身をいかにせん、わがみのよるべもしらぬによせたり、此かさゝぎ有二由緒一、魏武帝、月明星稀、烏鵲南飛、繞レ樹三返何枝可レ任と云心也と云々、かさゝぎのつかさなにふるはしつくりいかで雲ゐにわたしそめけむ、

〔塵袋三〕一カサヽギト云フハミノ毛ノ頭ニアル鷺歟

鵲カサキハ尾キハメテナガク、ハシミジカクシテ、水邊ニスマズ、山木ニスム、一名ニハ飛鳥ト云ヘリ、アマノ河ノカサヽギノ橋ト云フモ是也、マタ白鷺ノタグヒニ非ズ、烏鵲橋ツラナテ浪往來スナド申テ、アヤマチクロキ物ニコソ云ヒナラハシタレ、冬至ノ日スックリソメテ、春子ヲウムモノ也、見二毛詩箋一成尋阿闍梨ノ在唐記云、見二鵲鳥一似レ烏頗小、腹白背黑羽白斑也ト云ヘリ、鵲鵲ハ烏鵲也、兼名苑ニハ犬ノ異名ヲ飛鵲ト云ヘリ、オモヒガケヌ樣也、播磨國ノ風土記ヲミレバ、佐用郡ニ船引山ト云フ山アリ、此ノ山ニ有二鵲鳥一、世俗云二韓國鳥一、栖二枯木穴一、春見レ之夏不レ見云ヘリ、此ノ國ニモアルモノニコソ、

〔物類稱呼二動物〕鵲かさゝぎ　西國に有、唐がらすと云、又高麗烏と云、五畿內及東國になし、鳩より小、羽に黑白有、

〔東雅十七禽鳥〕鵲カササギ　推古天皇の御時に、難波吉士磐金、新羅より至りて、鵲二隻を獻ず、難波の杜に養はしむ、因以巢レ枝而產レ子といふ事見えたり、日本紀にこれ我國の鵲の來りし事の始なり、カササギとは、新羅の方言と、此國の方言とを併せ呼びしと見えたり、卽今も朝鮮の方言に、鵲を呼び